

ゆたか倶楽部 よもやま話

vol. 9

東京・豊洲には、かつてはIH I（石川島播磨重工業）造船所東京第一工場がありました。そこで作られたのが日本クルーズ客船「ばしふいつくびいなす」です。晴海通りを晴海（3丁目）交差点で左折し、春海橋を渡る時、川の右側で1隻のクルーズ客船がどんどん出来上がっていく様子を楽しみに見ていました。

I H I 東京第一工場は徳川幕府が

ペリー来航を受けて1853年に隅田川河口の石川島（現在の中央区佃）に開いた造船所が前身です。1939年（昭和14年）に豊洲に場所を移し、最初の原子力船「むつ」など艦艇、客船、貨物船など合計692隻を建造しました。2002年（平成14年）3月に63年間の歴史に幕をおろし、造船所の敷地の一部に、巨大ショッピングモール「アーバンドックららばーと豊洲」が2006年10月に開業。造船で使ったクレーンや巨大なスクリーナーなどがモニュメントとして敷地に残され、造船所の有りし姿を今に伝えています。

1997年（平成9年）の進水式に日本クルーズ客船より招待を受け、出

席しました。進水式とは完成した船を初めて水に触れさせる儀式です。入谷社長のご息女の新代さんが、命名者（ゴットマザー）になりました。何かの折に、姉妹船「おりえんとびいなす」（1990年就航）と同様ひらがな名にした理由を幹部の方に伺ったことがあります。回答はいただけず、謎は今も謎のままです。

進水式は船が完成すると必ず行われるものです。ゆたか倶楽部では、日本最多の造船量を誇る今治造船の関係会社による進水式見学ツアーを実施していますが、これは他ではなかなか経験できない企画です。命名式の後、船につながった綱を銀の斧で切る「支綱切断」でシャンパンの瓶が船体にぶつかって割れ、と同時にくす玉が割れて紙吹雪が舞い、プラスパントの演奏が響く中、船は船台を一つずつ確認しながら外されると、あつという間に水の中を滑るように進んでいきます。目の前にそびえる巨大な船が、轟音と共に海面に下りていく光景はとても迫力があります。当日は我々のためにテント内に椅子

が用意されていますので、式典の様子を間近にご覧いただけます。一つ残念なのは記念品などのお土産がないことです。基本的に観光客向けではないので用意していないのだと思います。

「ばしふいつくびいなす」の話に戻りましょう。進水式の翌年4月の処女航海は、海南島、ベトナム、シンガポール、スリランカ、インド、マレーシア、インドネシア、ブルネイ、香港を巡る40日間クルーズで、寄港地観光は読売旅行、PTS（現在はJTBに吸収）、ゆたか倶楽部の三社が担当しました。ゆたか倶楽部からは75名様のお客様が参加されました。処女航海では、途中で造船所の技術者が数名乗船します。船の試運転はしていますが、お客様を乗せた通常運航についてのメンテナンスのため、必要な工程の一つです。

天候に恵まれ、船に問題もなく、技術者たちは安心して途中下船していきましました。その直後に天気が崩れ、船は大荒れの中の運航に。そんな中、ロイヤルスイートに宿泊されていたゆたか倶楽部からご参加のご夫婦が、天井から聞こえるゴロゴロという音に夜な夜な悩まされ、奥様の方が不眠症になりました。部屋を変えるにしてもロイヤルスイートに空きがなく、その部屋を使い続けることになったそうです。香港での寄港地観光の地上手配を弊社が

担当していた関係もあり、現地でご夫妻にお会いしました。顔色は悪く、目は腫れてフラフラの状態で、すぐに病院へお連れし入院していただきました。これは後に分かったことですが、鉄のローラー状の用具が天井に取り残されたままだったのです。船が大揺れすると、その用具も動いて音を出していました。日本クルーズ客船の当時の専務とチーフパーサーと私の3人でお見舞いとお詫びに伺いました。

私は「ばしふいつくびいなす」7階のオープンバーからロゴシヨップ、メインダイニングルームにかけてのフロア展開がとてもいいと思っています。サンドイッチやドリンクなどいつでもオープンバーでいただけるようになっていいるのも素晴らしい。日本船で一番最初に客室を禁煙にしたのも同船です。現在は6階と10階に新設されたスモークコーナーのみでの喫煙になつています。今回は世界一周クルーズでのエピソードをお話ししようと思います。

日本のクルーズ略史

1989年	「ふじ丸」（2万3235トン）就航
1989年	「おせあにつくぐれいす」（5218トン）就航
1990年	「につば丸」（2万2472トン）就航
1990年	「クリスタルハーモニー」／現在の飛鳥Ⅱ（5万1422トン）就航
1990年	「おりえんとびいなす」（2万1884トン）就航
1991年	「初代／飛鳥」（2万8856トン）就航
1998年	「ばしふいつくびいなす」（2万6594トン）就航